

高病原性鳥インフルエンザと 学校飼育鶏

—安心してふれあうために—



平成20年10月

社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

大切な学校飼育鶏

- ①子どもたちがチャボや鶏とふれあうことにより、子どもたちは生命の尊さを学び、生き物としての鳥類を学ぶことができます。
- ②特に、チャボは性格がやさしく、ひなを育て、親子や夫婦の愛情を示すため、多くの幼稚園や学校で飼育され、子どもたちにかわいがられています(写真)。



学校のチャボや鶏と高病原性鳥インフルエンザ

- ①高病原性鳥インフルエンザは、鳥インフルエンザウイルスの中でも、特に鶏に病気を起こす力が強い種類のウイルスにより起こる病気です。
- ②鶏やチャボは、このウイルスに感染した水鳥や水鳥の生活水とふれることで、この病気にかかりますが、必要以上にこの病気にかかることを心配する必要はありません。
- ③鶏が食欲をなくし、体を膨らませてうずくまっている時は、何らかの病気にかかっているときですが、このウイルスに感染した場合は、多くの場合、元気をなくし(写真)、すぐに死亡してしまいます。餌も水も足りていて、複数の鶏がバタバタ死ぬ場合は、この病気かもしれません。健康な鶏は心配する必要はありません。
- ④鶏やチャボがこの病気にかかった場合は、法律に基づいて最寄りの家畜保健衛生所に届出をする必要があります。



高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染し、元気をなくしている鶏。

● 学校で高病原性鳥インフルエンザ対策として注意する点 ●

日頃から獣医師さん(家畜保健衛生所、動物病院)と連絡をとって、飼育方法などの助言と指導を受けられる関係をつくりましょう。(獣医師さんは幼稚園や学校を支援しています)

飼うときの一般的な注意

- ①毎日鶏たちの糞を掃除して、新鮮な水と餌を朝夕の2回与え、鶏やチャボたちの健康を維持してあげましょう(写真)。
- ②普段から毎日動物の様子をよく見て、「元気であること」、「痩せていないか」、「怪我をしていないか」などを確かめましょう。子どもたちが鶏やチャボとのふれあいを深めるためにも、とても大切なことです。
- ③飼育舎は、暑さ寒さに気をつけ、落葉樹を利用して、夏の日陰と冬の日当たりを確保しましょう。また、冬には巣箱をいれるなど寒さから鶏やチャボを守り、病気にさせないようにしましょう。
- ④子どもたちに、日頃から、飼育舎の掃除などの作業や外遊びの後での手洗いとうがいの習慣をつけさせましょう。



鶏やチャボを感染から守るために

- ①鶏やチャボが、野生の水鳥や水鳥の生活水と接触することを避けましょう。
- ②掃除のときには、餌の食べ残しや餌こぼれを片付けましょう。また、餌を保管する入れ物には、必ずふたをし、野鳥やネズミが来て病気をうつす機会をなくしましょう。
- ③飼育舎の金網に、穴などがあれば補修しましょう。

飼育している鶏やチャボに異常があった場合には

鶏やチャボに元気がないときやほぼ同時期に死ぬ場合は、すぐに獣医師さんに相談して、治療や指示などを受けましょう。

ご心配な時には

まず、学校において動物の飼育方法や健康管理について助言・指導している獣医師さんや、最寄りの家畜保健衛生所に相談しましょう。獣医師さんは、必要なら家畜保健衛生所と相談して、高病原性鳥インフルエンザについても適切な助言や指導をしてくれます。

1. お近くの家畜保健衛生所

2. 地元の市町村役場

3. お近くの動物病院

- 近くの都道府県で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、獣医師さんが家畜保健衛生所と相談し、必要に応じて、どうすべきかを指示をしてくれます。その指示にしたがい、心配せずに子どもと鶏をふれ合わせてください。
- 獣医師の助言等を必要とする場合は、都道府県等の獣医師会あるいは全国学校飼育動物獣医師連絡協議会(電話番号0422-53-7099)にご相談下さい。

社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 緬羊会館内

TEL 03 (3833) 3861 FAX 03 (3833) 3864